

各位

会社名 日東工器株式会社
代表者名 代表取締役社長 小形 明誠
(コード番号 6151 東証プライム)
問合せ責任者 取締役 専務執行役員 管理統轄 森 憲司
(TEL 03-3755-9970)

2023年3月期決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2023年5月31日（水）に開催した2023年3月期決算説明会および機関投資家・アナリストとの1on1ミーティングでいただいた主なご質問をまとめたものです。
なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

(ご参考) 決算サマリー

2023年3月期
決算概要

前期比、大幅増収増益を達成
売上高 **280億** (前期比+11.1%)
営業利益 **36億** (前期比+9.3%)

2024年3月期
事業計画

引き続き増収、営業利益は2桁増益を見込む
売上高 **303億** (前期比+8.1%)
営業利益 **41億** (前期比+12.4%)

株主還元

23年3月期の年間配当金は53円
24年3月期の年間配当金62円を予想
株主還元基本方針：連結配当性向40%を目標

財務戦略

資本効率を考慮し**中長期的にROE 8%以上を目指す**
経済情勢、株価等を総合的に勘案した上で自社株買いを実施済

Q1

福島の新工場建設に伴う投資額は112億円とのことですが、業績にあたる影響がいつから出るか。具体的に教えてください。

A1

新工場投資は、25年3月期から損益への影響が出る見込みです。24年3月期への損益影響は軽微です。

Q2

材料調達難と説明がありましたが、こういった材料でしょうか？現在も続いていますか？

A2

材質としては半導体とゴム材です。半導体は回復の兆しが見えていますが、ゴム部品は、変わらず調達が厳しい状況が続いています。

Q3

連結営業利益の四半期推移についてお伺いします。23年3月期の第4四半期の営業利益が下がっているようですが、その要因をお聞かせください。

A3

23年3月期第4四半期は、第3四半期に比べ売上が減少したため、営業利益が減少しております。また、期末の為替レートが第3四半期末より円高方向に振れたことによる影響もあります。

Q4

東証のPBR1倍割れ議論、資本効率改善要求について、もう一段踏み込んだ取り組みのご予定はありますか？

A4

PBR1倍割れについて、現在、様々な施策を社内で検討、議論しています。施策の一つとして自社株買いも実施しました。また、新工場についても発表しました。さらに、サステナビリティへ積極的に取り組み、非財務情報も開示してまいります。
現在、中期経営計画が進行していますが、まず、中計をしっかりと進めていくのが第一、次に来年度から新中期経営計画を策定し、中長期的な企業価値向上につながる施策を入れていきます。

Q5

為替の影響についてもう一度ご説明ください。感応度についてもご教示ください。

A5

当社の場合、外貨建ての仕入れと海外売上の影響があるのですが、基本的にそれらが消しあうため、為替の大きな影響を受けないのが通常です。しかし、23年3月期においては、主にタイパーツの仕入れの影響が大きく利益に影響がでました。
感応度については、24年3月期は、外貨建ての仕入れと売りが消しあうため大きな影響はないと考えます。

Q6 人件費や材料費などの原価上昇分を価格に転嫁できていますか。

A6 2022年9月に国内製品価格の値上げをしました。平均すると約15%の値上げになります。大手ユーザーや特注品は個別交渉での値上げとなるため、実際の値上げ幅は若干下回ります。なお、材料費、人件費が上がり非常に厳しい状況ですが、なんとか価格転嫁でカバーできている状況です。

Q7 棚卸資産が増加している要因は何でしょうか。

A7 販売の機会を逃さないようにするために、在庫を多めに持っています。また、材料調達難もあり、前倒し調達を行っていることも要因の一つです。

以上

IRサイト



当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。

<https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/>

決算説明会動画配信



当社では、決算説明会の動画を配信公開しております。(2024年1月末迄)ぜひご覧ください。

<https://irp-system.net/presenter/?conts=01h1r161xjveem8jk869yc73qf>